

聖書日課 『からし種』 2024.6.16—6.23

<p>6月16日 (日) イザヤ 9章</p>	<p>「血にまみれた軍服はことごとく火に投げ込まれ、焼き尽くされた。ひとりのみどりごがわたしたちのために生まれた。…その名は…『平和の君』と唱えられる」(4-5節)。これ以上、幼子が爆弾の犠牲になり、血が流されることがないように。「血にまみれた軍服」はもう要らない。「平和の君」として来てくださった方の名を皆で賛美する日が速やかに来ますように。</p>
<p>17日 (月) イザヤ 10章</p>	<p>「その日には、イスラエルの残りの者とヤコブの家の逃れた者とは…イスラエルの聖なる方、主に真実をもって頼る」(20節)。「残りの者」「逃れた者」とは、祖国の滅びを自分の目で見、自分たちの愚かさと不誠実とを深く問われた者たちのこと。自分の罪と向かい合わされるのはとても辛い時であるけれど、神に立ち帰り、新しい自分を生きる始まりとなる。</p>
<p>18日 (火) イザヤ 11章</p>	<p>「彼は主を畏れ敬う霊に満たされる。…弱い人のために正当な裁きを行い／この地の貧しい人を公平に弁護する」(3-4節)。「平和の王」は正当な裁きを行い、公平に弁護する。「この世の王」はこの当たり前ができない。おのれの欲と偽りを正当化し、黒を白と言いくるめ、弱い人、貧しい人の心と命を踏みにじる。「平和の王」よ、私たちの間に来てください。</p>
<p>19日 (水) イザヤ 12章</p>	<p>「主こそわたしの力、わたしの歌／わたしの救いとなってくさった」(2節)、「あなたたちは喜びのうちに／救いの泉から水を汲む」(3節)。渴ききった喉に、清らかな泉から汲む水が潤いとなるように、主なる神は私たちの命を生き返らせてくださり、私たちに喜びの歌をうたわせてくださる方。主の教会に祈りを携えて集い、救いの歌を共に歌おう。</p>

大井バプテスト教会

聖書日課 『からし種』 2024.6.16—6.23

<p>20日 (木)</p> <p>イザヤ 13章</p>	<p>「わたしは天を震わせる。大地はその基から揺れる。万軍の主の怒りのゆえに」(13節)。天地を造られた神は、私たちの考えるスケールをはるかに高く超えている。地の基が動く時、私たちは地の上にひれ伏さざるを得ない小さなもの。けれども、その小さなものが神に立ち帰る一步を踏み出すことができるように、神は「熱く怒り」ながら「篤く祈って」くださっている。</p>
<p>21日 (金)</p> <p>イザヤ 14章</p>	<p>「主が、あなたに負わせられた苦痛と悩みと厳しい労役から、あなたを解き放たれる日が来る」(3節)、「ああ、虐げる者は滅び／その抑圧は終わった」(4節)。イスラエルの民にとって「その日」はどれほど待ち遠しい日であったことだろう。私たちには「遅い」と思われても、主は必ず「その日」を用意してくださっている。苦痛と悩みから解放され、賛美あふれる日を。</p>
<p>22日 (土)</p> <p>イザヤ 15章</p>	<p>「わが心は、モアブのために叫ぶ」(5節)。モアブはヨルダン川東岸の隣国。飢饉の時にはイスラエルからモアブに移住した人々がいたし(ルツ記1章)、戦時にはモアブの難民がイスラエルに助けを求めてきた。イザヤはモアブを襲った悲劇に心痛めつつ、この出来事の背後に働きたもう「主」の厳しさを見る(9節)。どんな時も「主」に心合わせる信仰を求めたい。</p>
<p>23日 (日)</p> <p>イザヤ 16章</p>	<p>「彼は公平を求め、正義を速やかにもたらす」(5節)。当時モアブはアッシリアの攻撃にあつて、避難民がユダに流れ込んできていた。そんな中、5節に救い主の預言が記されている。力のある者が力のない者を虐げるという世の中にあつて、やがてメシアがあらわれて、彼が公平、正義を打ち立てるという預言である。主による正義を祈ろう。</p>